【国土交通省】

平成20年度　地方の元気再生事業　事業実施調書

(1)　取組名	地域資源と現有する社会資本（外国人力）を活かしたまちづくり		
(2)　実施団体名	NPO法人野外教育学修センター　魚沼伝習館	(3)　対象地域	新潟県南魚沼市　旧大和地域（魚野川・水無川流域）
(4)　代表団体名	NPO法人野外教育学修センター　魚沼伝習館	(5)　推薦団体名	新潟県南魚沼市

(6)実施した取組の内容

取組①	コミュニティバスの運行に関する社会実験	
実施主体	NPO法人野外教育学修センター　魚沼伝習館	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	・実施内容；コミュニティバスの運行・アンケート調査・中吊り広告の収益性の検討。 ・実施時期；平成20年10月～2月 ・実施場所；南魚沼市内(国際大学・北里学院・医療機関・JR浦佐駅・地元商店街) ・取組の目的；中長期滞在者と地元住民との異文化交流と利便性を促進し、運行体制の合理化による各機関のコスト削減及び地元商店街の商業復興を目指す足掛かりとする。	・実施内容；コミュニティバス運行、車内アンケート調査、インタビュー調査 事業化に向けた検討会を実施（12月上旬～2月中旬） ・実施時期；平成20年10月～11月（運行ルート選定・バス手配） 平成20年11月～（バスの運行、乗客へのアンケート実施、大学内にてインタビュー調査） ・実施場所；浦佐地域内（国際大学～北里学院～JR浦佐駅～地元商店街）で運行 年末年始は小出方面と六日町方面を追加、医療機関は1月中旬より追加運行 ・利用者数（11月・12月）；平日114名（稼働日数37日）休日45名（稼働日数11日）年末年始334名（稼働日数8日） ・インタビュー対象者；国際大学30名、北里学院50名 ・アンケート対象者；乗客数493人中106名が回答 ・バス収容人数；1運行25名 ・取組の結果；インタビュー調査での利用目的で「日常の買い物」が80%以上であったのに対し、1運行の平均利用者数は11月の平日で2.3名、12月が3.8名、休日は11月・12月ともに4.0名であった。しかし、年末年始にインタビュー調査で要望の多かった小出・六日町方面へ運行したところ、平均利用者数が21名に急増し、アンケート結果からも小出・六日町方面への運行を希望する意見が100%であった。この結果は地元商店街の利用度の低さを現わしており、今後は商店街の在り方の再考が急務であることが課題として残った。 またアンケート結果より取得したい情報内容として「スーパーのチラシ」が33%、「地域のイベント情報」が44%、「観光情報」が17%となったことで、車体構造上の問題から中吊り広告ではなく、チラシを置いて自由に取得できるスタイルで実施した。 当初、医療機関（病院バス）を含む運行ルートを検討したが、複雑多岐にわたるため当初計画ルートより除外し、再検討することとした。
取組②	ふれあいセンターの開設	
実施主体	NPO法人野外教育学修センター　魚沼伝習館	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	・実施内容；空き店舗を利用した交流拠点の開設、商店街関係との勉強会の企画・運営、来訪者や移住者向けのガイド育成、移住促進のためのガイダンス開催 ・実施時期；平成20年10月～2月 ・実施場所；南魚沼市内空き店舗 ・取組の目的；商店街の中の空き店舗を地元住民と中長期滞在者との交流拠点として利活用することで地域課題を検討・議論する場を設け、且つ中長期滞在者への生活支援の場とする。	・実施内容；交流拠点ふれあいセンター「GLOBE CLUB」の開設、来訪者へのアンケート調査、カルチャースクールの開催、イベントおよび勉強会の開催（1/18交流イベント「天地人～浦佐の陣～」開催・2/8勉強会「ITビジネスとWEBマーケティング研究会」開催予定、ホームページによる情報発信、 ・実施時期；平成20年10月（空き店舗の調査・検討）平成20年11月～（ふれあいセンターの開設） ・実施場所；南魚沼市本町通り商店街内の空き店舗（元飲食店） ・実施時間；火・木・土・日・祝日の10時～18時 ・インタビュー調査；来訪者178名より回答 ・アンケート回答者；来訪者144名より回答 ・取組の結果；学生への地域情報発信不足との結果から地域住民による魚沼の地域資源の情報発信イベントとして写真展を2回開催し、地域住民との交流イベントとしての交流パーティー（参加者20名）、交流を目的としてカルチャースクール（クリスマスリース作り・アクセサリー作り・正月しめ縄づくり）（参加者延べ41名）と交流イベント『天地人～浦佐の陣～』（来場者約300名）を開催。また地元商店街のマップを作成して来訪者へ配布した。その結果、地元住民、市外からの来訪者と大学の学生などが日々来場し、開設から2カ月で来場者が約700名に及んだ。また、アンケート結果で回答者全員から「継続を希望する」との回答を得た。 課題として商店街の職種・業態について再検討の必要性を改めて認識した。

	取組③	外国人居住者のための生活支援	
	実施主体	NPO法人野外教育学修センター　魚沼伝習館	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		・実施内容；外国人居住者へのアンケート調査、語学研修、交流イベント、シンポジウム開催、先進地視察、地元商店街とサイン計画の検討会の実施。 ・実施時期；平成20年10月～2月 ・実施場所；コミュニティセンター及び南魚沼市内 ・取組の目的；国際大学関係者による語学研修を開催し地域住民との交流を促し、アンケート調査から地域課題をあぶり出し関係機関によるワークショップを開催して当該地域のデザインを作成していく。	・実施内容；外国人居住者へのインタビュー調査、毎週火・土に英会話教室開催、毎週木曜日に日本語教室開催、2/21勉強会「商店街のグローバルデザイン研究会」開催予定）、国際大学学生による郷土料理の紹介イベント（2月開催予定）、先進地視察（2月上旬予定） ・実施時期；平成20年10月～2月 ・実施場所；ふれあいセンター（語学教室・イベント・ワークショップ）、インタビュー調査（国際大学）、先進地視察（群馬県大泉町（予定）） ・インタビュー対象者；国際大学30名 ・取組の結果；国際大学学生へのインタビュー調査から70%の学生が地域を知るために地域情報と地元住民との交流を希望しており、ふれあいセンターに国際大学関係者が延べ200名程来訪した。また今まで商店街に足を運ぶことのなかった外国人居住者がふれあいセンター開設をきっかけに商店街に来るようになったことから、今後はさらなる地域課題の発掘が可能であると予想される。
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点
	実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館 協力機関と連携して全体企画と体制づくりを実施する。 協力機関；八色まちづくり協議会（地域づくり団体で構成）（取組③） 取組内容をもとに当該地域のグランドデザインを策定する。 地元商店街（取組②、③） 情報提供及び取組内容をもとに商店街の方向性を検討。 国際大学（取組①、②、③） 北里保健衛生専門学院（取組①、②） 情報提供・学生への告知及びニーズや現状の問題点の調査。		・取組①バスルートについて国際大学と北里学院の通学バスを基準に設定することで最適なルート設定が可能となり、また、告知については全学生へのメール告知や学内掲示版を活用することでスムーズに行うことができた。 ・取組②地元商店街からの情報提供により空き店舗を確保でき、ふれあいセンターの周知においては、地元商店街では店頭告知及びチラシ配布、大学内では全学生へのメール告知及び学内掲示板を活用した告知がなされた。また、イベントでは地元商店街と大学の協力により交流の拡大が図れたことで、商店街の方向性についてより具体的な議論がなされるようになった。 ・取組③国際大学の協力により語学研修の講師を早期に確保することができた。また、この研修に地元商店街や地域づくり団体が参加したことで当該地域のグランドデザイン策定に向けて連携が強化された。 ・実施主体であるNPOは各機関との連携により円滑に取組を実施することができた。 ・各取組にそれぞれの担当機関が中心に取り組んだ事により、それぞれの成果を得、また課題が明らかになった。これら課題の解決のためには、各機関毎の体制強化を図るのはもとより、相互の連携と協力によるフォローアップ体制についても取り組んでいく。
(8)取組により得られた成果	○成果1→		
	H19		H20（当初予定していた目標）
	各機関・組織が個別に運行しているため地域内交流がない		アンケートによるニーズ・問題点を把握する。 交流人口の増加（乗客数・乗降目的の把握）
	H20（実際に得られた成果）		
	・年末年始を除く平日は北里学院関係が43名と国際大学関係が71名利用しており学生同士の交流のきっかけができた。 ・休日に当該地域を巡回するルートの1日の平均利用者数が4名程度であったのに対して、年末年始に行った大手スーパーなどが存在する周辺地域への運行では8日間で334名に急増しており、アンケートの全回答者（106名）がこのルートの継続を希望していることから地域内の交流人口増加が見込まれる。 ・アンケート結果より、必要な情報として「スーパのチラシ」33%、「地域のイベント情報」44%、「観光情報」17%であったことから今まで情報発信が不足していたことが判明した。		
	○成果2→	空き店舗を利用して地域住民と移住者・留学生の交流拠点を整備し、新たな地域課題をあぶり出し検討・議論する場を設けることで交流を促す。 移住者が住みやすい環境を提供できるように、生活支援の窓口として機能するよう総合ガイドを育成する。	
	H19		H20（当初予定していた目標）
	各企業・組織がそれぞれ独自にケアしている 交流の場が無い		ふれあいセンターを地域コミュニティの核として位置づけ、滞在者・移住者などへの情報発信や若年層の交流拠点とする。
	H20（実際に得られた成果）		
	・ふれあいセンターの利用数が開設から2か月で700名程度となり、地元住民が400名程度で大学関係が250名程度、残りが市外からの来訪者で今まで交流の機会がなかった国際大学、北里学院間でも交流が生まれ、また地元住民と大学関係間でも写真展やカルチャースクールを通して新たな交流が生まれた。 ・ふれあいセンターでの交流を機に北里学院から地元食材を使用した特産品の提案がされ、1/18のイベント「天地人～浦佐の陣～」で学生が中心となり商品のデモンストレーションを実施。（来場者約300名） ・ふれあいセンターでのカルチャースクールなどをきっかけに市内外から20名程度が初めて当該地域に来訪した。 ・語学研修会を国際大学の学生を講師にイングリッシュカフェとして開催したことで気軽に地域住民が外国語と触れ合う機会が生まれ、受講者も増加している（11月は4回開催で延べ16名が受講、12月は7回開催で延べ35名が受講）。また、ふれあいセンターに来訪した国際大学の学生からは日本語を学びたいとの要望があり、日本語講座を12月から新たに開催し、3回の開催で延べ6名の学生が受講し、今後も希望が見込まれる結果となった。		

<table>
<tr><td>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</td><td colspan="2">・ニーズに合ったコミュニティバスの運行が公共交通機関の乏しい当該地域において有益であることが年末年始の運行とアンケートから明らかになり、利用者数の増加対策、商業施設等からの広告収入及び各機関で運行しているバスの集約も踏まえた事業計画を検討する。
・ふれあいセンターでのアンケート調査から地元住民（主に高齢者）のバスの必要性が確認されているが、最適な運行ルート設定に向けたアンケート調査を行い、また自家用車の所有率の高い当該地域において公共交通機関への利用頻度を上げるための対策を検討する。
・バスの運行に関して現在のチケット制では事前にチケットを購入していないと乗れないということが不便であるとのアンケート結果から、利便性の向上と事業展開に向けた路線認可の問題等で運行に関する法律上の規制をクリアする方法が大きな課題として残った。
・これまで中長期滞在者（大学関係）と交流の機会が少なかった当該地域においてふれあいセンターを通して交流が生まれ、北里学院による地産地消を目的とした新たな特産品の開発が提案されるなど、新しいコミュニケーションの拡大が図れた。今後はイベントや勉強会を通して特産品の開発や商店街の復興に向けて地元商店街のみならず大和地域の企業や農家とも協働して本格展開への調査・検討が必要になった。
・ふれあいセンターではスタッフ及びガイドの確保が困難であったため、毎日の開設ができなっかたが、調査結果から70%の回答者より毎日の開設を要望され、体制の検討が必要となった。
・当該地域の活性化において、中長期滞在者（大学関係者含む）に対する移住・定住の促進とそのための新たな雇用の場の創出が今後の課題としてクローズアップされ、さらにJR浦佐駅の未利用スペースの活用について地元住民及び大学関係者から問題提起がなされたことで、『移住・定住促進』・『雇用の場の創出』について新たな方策が必要となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">(10)平成21年度以降の活動の見込み</td><td>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</td><td>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</td></tr>
<tr><td>1、コミュニティバスの事業会社設立準備（H21年度～）
・運行実験の継続によるニーズ、課題の調査
・収益化可能な事業計画の検討
・運行ルートの最適性の検討と新たなニーズ調査</td><td>1、コミュニティバスの事業化へ向けた調査・検討（H21年度～）
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館、国際大学、北里学院、医療機関、南魚沼市
・大学の休みの期間等を考慮して年間を通した利用者変動も視野に入れた運行実験の継続。
・運行ルートの最適性の検討と新たなニーズ調査。
・料金体系、路線認可等の検討を行い事業会社設立への事業計画の作成。
・学校・病院等の個別路線の統合を前提とした事業会社への移行準備。

【活用を希望する制度；上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額；500万円）】</td></tr>
<tr><td>2、ふれあいセンターの機能強化（H21年度～）
・商店街関係者と活性化プロジェクトを立ち上げ、商店街としてのグランドデザインの作成
・当該地域全体のサイン計画の検討及びマーケティング調査
・ふれあいセンターの事業会社設立準備</td><td>2、ふれあいセンターの機能強化（H21年度～）
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館、地元商店街、地元商工会、地域づくり団体
・北里学院、地元商店街及び商工会と特産品の開発、販路確立に向けた検討会の実施。
・来訪者によるアンケート調査から地域づくり団体と商店街の構成員で商店街の活性化プロジェクトを立ち上げ、グランドデザイン検討。
・当該地域全体のサイン計画の検討。
・ふれあいセンターの事業会社設立への事業計画作成。

【活用を希望する制度；上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額；200万円）】</td></tr>
<tr><td>3、社会資本（外国人力）活かした企業誘致準備（H21年度～）
・語学研修によるOJTトレーニングの実施
・外国企業誘致条件等の検討
・企業誘致候補地の調整と事前協議</td><td>3、社会資本（外国人力）を活かした企業誘致準備（H21年度～）
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館、国際大学、地域づくり団体、南魚沼市
・語学研修によるOJTトレーニングの実施。
・国際大学関係者と外国企業誘致に向けた検討会の実施。
・自治体、国際大学、地域住民と協働で企業誘致候補地の調査、検討を行う。

【活用を希望する制度；上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額；300万円）】</td></tr>
<tr><td></td><td>当初提案なし</td><td>4、JR浦佐駅の空きスペースを利用したインキュベーションセンター及び地域のインフォメーションセンター機能の検討及び開設
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館、設立準備（有識者）委員会（設立予定）
・首都圏から1時間半の立地でありながら、活性化されない原因として地域情報の受発信量の少なさと雇用の場の少なさが原因していると考えられる。
・その対策として、未利用スペースの大きなJR浦佐駅に情報発信機能と起業家支援機能を集約化し、活性化を図る。
・地域の大学等教育機関、有識者、民間企業、自治体と開設準備委員会を設立。
・起業化ニーズとのマッチング拠点機能の検討。
・首都圏から見た魚沼地域は新潟県の玄関口であることから、IUJターンの窓口機能を併せ持つ情報発信と交流の拠点として未利用スペースの利活用を検討する。
・ホームページの開設
【活用を希望する制度；上記について地方の元気再生事業の支援を希望（想定金額；800万円）】</td></tr>
</table>

地域資源と現有する社会資本（外国人力）を活かしたまちづくり（新潟県旧大和地域）

ーNPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館ー

◆主な実施取組の内容◆

取組①；コミュニティバスの運行に関する社会実験
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館
実施内容；〇事前アンケートで運行ルートを設定
〇車内アンケートで運行ルートの改善
結果；●総利用者数：　493　人(平成21年1月4日時点)
・うち平日利用者：　114　人、休日利用者：　45　人
・年末年始特別ルート時：　334　人
●アンケート結果（回答数）：　106　人
・運行の継続を望むか？・・・・・「はい」と答えた人；106人
・車内でほしい情報は？・・・「地域のイベント情報」と答えた人；64人
「スーパーのチラシ等」と答えた人；48人
・チケット制について・・・・・「不便」と答えた人；60人
現時点で浮き上がってきた課題：
●地元商店街での乗降客が伸びない
⇒学生にとって商店街の利用度の低さ。
今後の商店街デザインについて再考の必要性がある。

コミュニティバス「ふれあい号」

取組②；ふれあいセンターの開設
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館
実施内容；〇空き店舗をコミュニティセンターとして開設
〇イベントやカルチャースクールの実施
〇アンケート調査で地域課題の発掘
結果；●交流拠点として11月1日にオープン（火・木・土・日・祝、10時から18時まで）
●来訪者総数：　672　名
●地域資源の情報発信として写真展を開催（2回）
●交流パーティー（参加者20名）とカルチャースクール（参加者延べ30名）の開催
●ふれあいセンターでの交流を機に北里学院から地元食材を使用した特産品の提案がされ、1/18に開催された交流イベント「天地人~浦佐の陣~」で学生が中心となり商品のデモンストレーションを実施（来場者300名）
●勉強会「ITビジネスとWEBマーケティング研究会」を開催（H21年2月8日予定）
●勉強会「商店街のグローバルデザイン研究会」を開催（H21年2月21日予定）
●商店街として職種・業態についての再検討の必要性を再認識

交流イベント
「天地人～浦佐の陣~」

地域の写真展の開催

H20年11月27日
新潟日報掲載

正月飾り教室

ふれあいセンター

取組③；外国人居住者のための生活支援
実施主体；NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館
実施内容；〇外国人居住者へのインタビュー調査
〇語学研修
〇交流イベントの開催
〇地元商店街とのサイン計画検討会の開催
〇先進地視察
結果；●毎週火・土曜に英会話教室開催（講師：国際大学学生）
（11月4回開催延べ16名、12月7回開催延べ35名が受講）
毎週木曜に日本語教室開催（12月3回開催延べ6名が受講）
⇒多文化交流促進
●ふれあいセンターのスタッフとして国際大学学生を迎え、外国人居住者への生活支援アドバイザーとなるべく育成を進めている。
●交流イベントの開催（取組②のイベント）
●国際大学、地元商店街、地域づくり団体とともに、商店街のグランドデザインと地域のサイン計画についてワークショップを開催（H21年2月）

英会話教室

◆取組実施による成果・今後の展開◆

●コミュニティバスの移住者に対する有益性と地元住民の必要性から事業化に向けた運行ルートの最適化と利用者増を図る対策及び施策の検討。
●ふれあいセンターを通した大学関係者と地域住民の新しいコミュニケーションの拡大が外国人を活かした地域のグランドデザインや特産品開発などの新たなまちづくりの仕組みを構築し、具体化に向けた対策及び施策の検討を行う。